

編集後記

2024 年は、年始早々から能登半島地震による大きな被害があり、幸先の悪い始まりとなりました。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。また、世界を見わたしてみると、ロシアのウクライナ侵攻から始まった社会情勢の悪化などに伴い、インフレによる世界的な物価高となりました。分析機器の関連品も値上げ、値上げと…続き、渋い顔をした営業担当が来るたびに警戒したものです。昨年よりも（おかげさまで）利用収入がほぼ倍増しているはずなのに、センター予算のやり繰りも大変でした。最近ではイスラエル・パレスチナ情勢も悪化しており、先が見通せない不穏な世の中になっているのかもしれませんが。

一方で、決して悪いことばかりでもありません。振り返ってみると、2023 年は長らく続いたコロナ禍から抜けて、大学等の教育現場でも活気が戻ってきた年であったと思います。本学への寄付金で実現した学食の「学生限定 300 円セット」企画では、コロナ前は本学のお昼の定番にもなっていた「道路まで伸びる長蛇の列」ができていて微笑ましく思いました。非対面の制限は厳しかったですが、やむを得ずに取り組んだ IT 化や DX 化が急速に進歩して、職場環境にも変化があったように実感しています。機器センターにおいては、今までに実践してきた講習会の動画化やりモート相談の活用などを、実地での対応と併用することにより、利用者のニーズにも広く対応できるようになりました。

共用機器では、古い設備の更新も徐々に進んでいます。この度、私の担当機器である核磁気共鳴装置（NMR）が新たに更新されることに決まりました！ この年報が発行される頃には官報に告知されているはずですが、2024 年度末の導入を予定しています。もう何年にもわたり新しい大型機器に触れていませんでしたので、大いに期待しているところです。これまでに引き続き、利用しやすい環境を整えるために尽力していきたい所存です。今後とも機器分析評価センターをよろしくお願い申し上げます。

（石原 記）